

1 労働力状態

労働力率は低下

平成17年における15歳以上人口(227万9543人)の労働力状態をみると、労働力人口(就業者及び完全失業者)は131万3852人で、平成12年と比べると3万9940人(3.0%)の減少となっている。労働力率(15歳以上人口に占める労働力人口の割合)は57.6%で、平成12年(59.7%)と比べると2.1ポイントの低下となっている。

労働力人口を男女別にみると、男性は76万3868人(労働力率は69.4%)、女性は54万9984人(同46.6%)で、男性が約6割を占めている。平成12年と比べると、労働力人口は男性が5.3%減、女性が0.5%増となっており、労働力

率は男性が3.7ポイント、女性が0.4ポイントそれぞれ低下している。

一方、非労働力人口(家事従事者、通学者、高齢者など)は83万596人で、平成12年と比べると270人(0.0%)減となっている。

昭和45年以降について労働力人口の推移をみると、昭和55年までは減少が続いたが、昭和60年に増加に転じ、平成7年まで増加が続いた。平成12年以降は再び減少となっている。

これを男女別にみると、男性は労働力人口総数の推移と同様の傾向を示している一方で、女性は昭和50年には減少したが、昭和55年以降では平成12年を除き増加となっている。

(表1-1、1-2、1-3、図1-1、1-2)

図1-1 労働力人口の年齢構成(平成12年、17年)

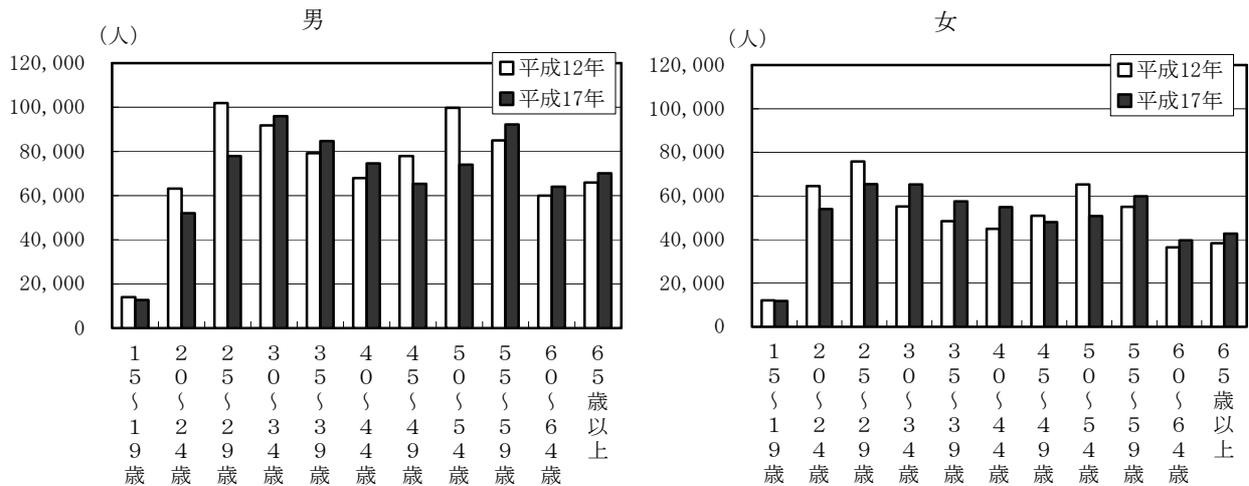


表1-1 労働力状態、男女別15歳以上人口の推移（昭和45年～平成17年）

男女、年次	15歳以上人口(人)					労働力率 (%)
	総数 1)	労働力人口	就業者	完全失業者	非労働力人口	
総数						
昭和45年	2,334,466	1,540,352	1,510,895	29,457	793,984	66.0
50	2,162,194	1,405,949	1,351,396	54,553	756,245	65.0
55	2,102,024	1,354,502	1,298,054	56,448	741,652	64.4
60	2,156,878	1,391,145	1,310,666	80,479	759,534	64.5
平成2年	2,208,547	1,423,615	1,345,405	78,210	765,173	64.5
7	2,244,627	1,450,314	1,336,176	114,138	774,359	64.6
12	2,267,543	1,353,792	1,231,235	122,557	830,866	59.7
17	2,279,543	1,313,852	1,159,848	154,004	830,596	57.6
男						
昭和45年	1,160,241	1,011,112	989,998	21,114	149,016	87.1
50	1,061,944	905,678	863,744	41,934	156,266	85.3
55	1,024,491	849,230	807,279	41,951	173,148	82.9
60	1,050,045	860,416	803,665	56,751	186,088	81.9
平成2年	1,077,742	871,414	818,019	53,395	194,327	80.9
7	1,094,382	882,461	805,694	76,767	198,873	80.6
12	1,102,705	806,603	725,668	80,935	242,760	73.1
17	1,099,903	763,868	661,724	102,144	252,021	69.4
女						
昭和45年	1,174,225	529,240	520,897	8,343	644,968	45.1
50	1,100,250	500,271	487,652	12,619	599,979	45.5
55	1,077,533	505,272	490,775	14,497	568,504	46.9
60	1,106,833	530,729	507,001	23,728	573,446	48.0
平成2年	1,130,805	552,201	527,386	24,815	570,846	48.8
7	1,150,245	567,853	530,482	37,371	575,486	49.4
12	1,164,838	547,189	505,567	41,622	588,106	47.0
17	1,179,640	549,984	498,124	51,860	578,575	46.6

1) 労働力状態「不詳」を含む。

図1-2 15歳以上人口、就業者数及び労働力率の推移（昭和45年～平成17年）

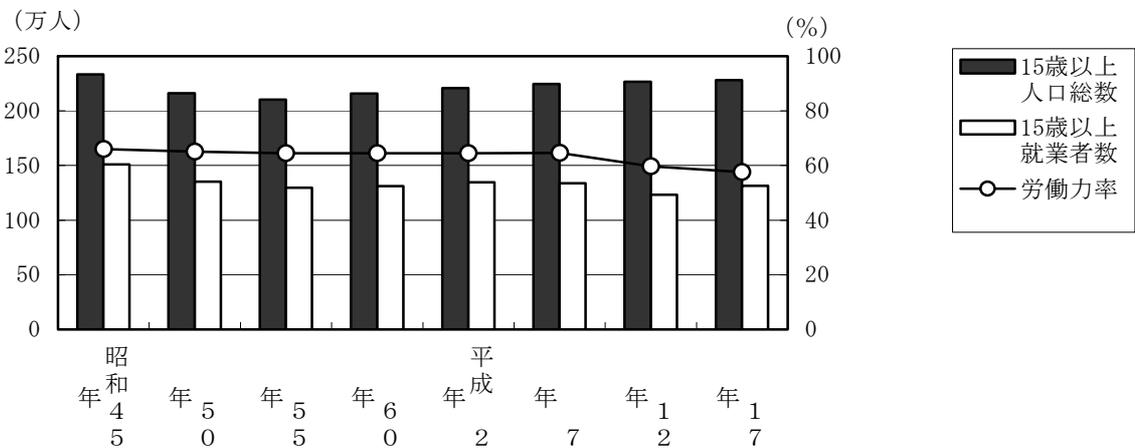


表 1 - 2 労働力状態、男女別15歳以上人口の増減数の推移（昭和45年～平成17年）

(人)

男女、年次	総数	労働力人口			非労働力人口
		総数	就業者	完全失業者	
総数					
昭和45年～50年	△ 172,272	△ 134,403	△ 159,499	25,096	△ 37,739
50～55	△ 60,170	△ 51,447	△ 53,342	1,895	△ 14,593
55～60	54,854	36,643	12,612	24,031	17,882
60～平成2年	51,669	32,470	34,739	△ 2,269	5,639
平成2～7	36,080	26,699	△ 9,229	35,928	9,186
7～12	22,916	△ 96,522	△ 104,941	8,419	56,507
12～17	12,000	△ 39,940	△ 71,387	31,447	△ 270
男					
昭和45年～50年	△ 98,297	△ 105,434	△ 126,254	20,820	7,250
50～55	△ 37,453	△ 56,448	△ 56,465	17	16,882
55～60	25,554	11,186	△ 3,614	14,800	12,940
60～平成2年	27,697	10,998	14,354	△ 3,356	8,239
平成2～7	16,640	11,047	△ 12,325	23,372	4,546
7～12	8,323	△ 75,858	△ 80,026	4,168	43,887
12～17	△ 2,802	△ 42,735	△ 63,944	21,209	9,261
女					
昭和45年～50年	△ 73,975	△ 28,969	△ 33,245	4,276	△ 44,989
50～55	△ 22,717	5,001	3,123	1,878	△ 31,475
55～60	29,300	25,457	16,226	9,231	4,942
60～平成2年	23,972	21,472	20,385	1,087	△ 2,600
平成2～7	19,440	15,652	3,096	12,556	4,640
7～12	14,593	△ 20,664	△ 24,915	4,251	12,620
12～17	14,802	2,795	△ 7,443	10,238	△ 9,531

表 1 - 3 労働力状態、男女別15歳以上人口の増減率の推移（昭和45年～平成17年）

(%)

男女、年次	総数	労働力人口			非労働力人口
		総数	就業者	完全失業者	
総数					
昭和45年～50年	△ 7.4	△ 8.7	△ 10.6	85.2	△ 4.8
50～55	△ 2.8	△ 3.7	△ 3.9	3.5	△ 1.9
55～60	2.6	2.7	1.0	42.6	2.4
60～平成2年	2.4	2.3	2.7	△ 2.8	0.7
平成2～7	1.6	1.9	△ 0.7	45.9	1.2
7～12	1.0	△ 6.7	△ 7.9	7.4	7.3
12～17	0.5	△ 3.0	△ 5.8	25.7	△ 0.0
男					
昭和45年～50年	△ 8.5	△ 10.4	△ 12.8	98.6	4.9
50～55	△ 3.5	△ 6.2	△ 6.5	0.0	10.8
55～60	2.5	1.3	△ 0.4	35.3	7.5
60～平成2年	2.6	1.3	1.8	△ 5.9	4.4
平成2～7	1.5	1.3	△ 1.5	43.8	2.3
7～12	0.8	△ 8.6	△ 9.9	5.4	22.1
12～17	△ 0.3	△ 5.3	△ 8.8	26.2	3.8
女					
昭和45年～50年	△ 6.3	△ 5.5	△ 6.4	51.3	△ 7.0
50～55	△ 2.1	1.0	0.6	14.9	△ 5.2
55～60	2.7	5.0	3.3	63.7	0.9
60～平成2年	2.2	4.0	4.0	4.6	△ 0.5
平成2～7	1.7	2.8	0.6	50.6	0.8
7～12	1.3	△ 3.6	△ 4.7	11.4	2.2
12～17	1.3	0.5	△ 1.5	24.6	△ 1.6

女性の25歳以上の労働力率は上昇傾向

平成17年の男女別労働力率を年齢（5歳階級）別に平成12年と比べてみると、男性は「15～19歳」を除くすべての年齢階級で労働力率が低下している。一方、女性は「20～24歳」および「65歳以上」を除く各年齢階級で労働力率が上昇している。女性の労働力率は、以前は「20～24歳」と「45～49歳」を頂点とし、「30～34

歳」を谷とするM字型となっていた。平成17年には、「20～24歳」における労働力率の低下、および25歳以上における各年齢階級の労働力率の上昇傾向により、M字型となっているものの頂点は「25～29歳」と「45～49歳」となり、「30～34歳」の谷も上昇している。（表1-4、図1-3）

表1-4 年齢（5歳階級）、男女別労働力率の推移（昭和60年～平成17年）

男女、年齢	（％）				
	昭和60年	平成2年	7年	12年	17年
男	81.9	80.9	80.6	73.1	69.4
15～19歳	24.5	25.4	23.5	20.2	20.8
20～24	76.2	77.8	76.4	66.1	64.5
25～29	97.0	96.0	95.4	87.1	82.7
30～34	98.4	97.4	97.1	90.7	87.6
35～39	98.8	97.8	97.6	91.9	89.2
40～44	98.7	97.8	97.3	92.6	90.6
45～49	98.2	97.7	97.2	91.7	90.9
50～54	97.3	96.8	96.5	91.4	89.3
55～59	94.5	94.5	94.6	88.9	87.3
60～64	81.5	79.3	80.5	71.1	70.3
65歳以上	45.0	42.5	43.3	35.4	31.1
女	48.0	48.8	49.4	47.0	46.6
15～19歳	21.6	21.8	19.5	18.3	20.2
20～24	73.0	74.6	72.9	66.8	64.9
25～29	53.8	60.1	64.9	64.6	66.6
30～34	47.3	48.6	53.0	54.6	58.6
35～39	56.2	55.2	56.3	56.9	59.8
40～44	63.7	63.2	62.1	63.0	65.9
45～49	63.3	66.1	65.5	63.7	67.8
50～54	58.2	62.1	64.3	63.5	64.2
55～59	49.8	52.4	56.9	57.6	59.2
60～64	38.1	38.3	40.2	40.7	42.6
65歳以上	16.2	16.2	16.5	14.8	14.0

図1-3 年齢（5歳階級）、男女別労働力率（昭和60年～平成17年）

